

本支司閏七月
 生
 宗社奉還籍
 七月二十日生
 了今之役
 訂四
 十五
 十六

本籍地	豊多摩郡清左衛門守格松平八郎地	姓名	古市公威	
族籍		生年月日	安政元年 庚申 五月 二十日	
姫路藩				
年	月	日	履	
明治十五年	十一月	十日	備申付候事	
			但月俸百貳拾圓給與候事	
十四年	二月	廿二日	茨城縣出張申付候事	
			御用掛被仰付候事	
	六月	廿八日	但取扱奏任ニ准シ月俸百貳拾圓下賜候事	
			土木局事務取扱被仰付候事	
	七月	十八日	和歌山静岡ノ兩縣へ出張被仰付候	
履	歴	用	紙	
明治十四年	十月	五日	御用掛兼勤被仰付候事	
			但一ヶ年金三百円下賜候事	
			東京大學理學部勤務被仰付候事	
	十二月	七日	群馬長野兩縣へ出張被仰付候事	
	十五年	一月	九日	月俸五拾圓増加候事
			札幌出張申付候事	
	八月	十六日	福井縣下越前國坂井港出張申付候	
	十月	二十五日	事	
	十一月		御用掛兼勤被免候事	
	十六年	二月	一日	月俸三十円増加候事
			御用有之福井新瀉兩縣へ出張申付	
	五月	二日	候事	
全			上	
内			務省	
文			部省	
全			上	
全			上	
内			務省	
全			上	
文			部省	
全			上	
内			務省	
全			上	
文			部省	
全			上	
内			務省	
全			上	
文			部省	
全			上	

六月五日	札幌縣出張申付候事	全上
九月二十日	歸京ノ節秋田縣へ立寄土崎港見分 スハシ 電報	全上
十七年三月六日	新潟富山石川福島 <small>阿賀川 長野 信濃川 流 域</small> 岐阜 <small>庄川 流 域</small> 六縣内土木局直轄工事監 督被仰付候事	全上
三月廿二日	御用有之新潟縣外二縣へ出張申付候事	全上
六月十日	御用有之札幌新潟兩縣へ出張被仰付候事	全上
七月九日	任内務三等技師 二級月俸下賜候事	太政官
八月二十日	叙從六位	樞密院
明治十七年十月廿二日	新潟縣在勤被仰付候事	内務省
十八年四月十日	御用有之福井縣出張被仰付候事	全上
五月十二日	御用有之秋田縣出張被仰付候事	全上
七月九日	御用有之福井縣出張被仰付候事	全上
十九年五月一日	任工科大学教授兼工科大学長 叙奏任官二等	
	上級俸下賜	文部省
五月六日	帝國大學評議官ヲ命ス	全上
五月十日	兼任内務二等技師 兼工科大学長如故 叙奏任官二等	
五月十日	福井石川富山新潟長野五縣へ出張 ヲ命ス	内務省
七月八日	叙正六位	

乙

二十年三月十五日	年俸三百円下賜	全上
四月七日	市街清潔規則審議ノ為メ中央衛生會臨時委員ヲ命ス	内閣
四月十四日	第三區土木監督署へ出張ヲ命ス	内務省
七月十五日	第五第六區土木監督署へ出張ヲ命ス	全上
十月廿五日	静岡縣へ出張ヲ命ス	全上
廿一年一月九日	神奈川縣横須賀へ出張ヲ命ス	全上
五月七日	工學博士ノ學位ヲ授ク	文部省
五月廿四日	中央衛生會臨時委員ヲ命ス	内閣
七月十九日	福島縣へ出張ヲ命ス	内務省
八月三日	徳島縣へ出張ヲ命ス	全上
八月廿三日	新潟外二縣へ出張ヲ命ス	全上
明治廿一年九月一日	東京市區改正委員ヲ命ス	内閣
十月廿四日	内務大臣山縣有朋歐洲諸國巡回ニ付隨行ヲ命ス	全上
十月廿八日	依願免兼工科大学長	全上
	年俸金千八百圓下賜	文部省
	依願帝國大學評議官ヲ免ス	全上
十月廿九日	歐洲巡回ニ付工科高等學校構成法及學術講習ノ方法調査報告ヲ命ス	帝國大學
廿二年九月十八日	歸朝	
十月十一日	兼任工科大学長 兼内務二等技師如故	
	叙奏任官二等	
十月十二日	上級俸下賜	文部省
十月廿六日	帝國大學評議官ヲ命ス	全上

履歴用紙

樞密院

乙

	十月廿四日	第一土木監督區巡迴ヲ命ス	内務省
	廿三年一月七日	第三回内國勸業博覽會審査官被仰付	内閣
	一月八日	第七部長ヲ命ス	内閣 内國勸業博覽會事務局
	六月十日	東京工業學校商議委員ヲ命ス	文部省
	六月十四日	任内務省土木局長	内務省
		叙奏任官二等	内務省
		上級俸下賜	内務省
		兼任工科大學教授	内務省
		兼任工科大學長	内務省
		叙奏任官二等 工科大學教授兼工科大學長	文部省
		年俸金六百円下賜	文部省
		帝國大學評議官ヲ命ス	全上
履歷用紙			樞密院
明治廿三年九月九日	中央衛生會臨時委員ヲ免ス	内閣	
九月廿九日	貴族院令第一條四項ニ依リ貴族院議員ニ任ス	内閣	
十一月一日	審査官ノ勞ヲ賞シ藍綬褒章下賜	賞勳局	
十月廿五日	第一回土木監督區巡迴ヲ命ス	内務省	
廿四年三月三十日	年俸金五百円下賜	文部省	
四月十五日	陞叙奏任官一等 内務省土木局長	内務省	
	中級俸下賜	内務省	
六月八日	陞叙奏任官一等 工科大學教授兼工科大學長	内務省	
	年俸五百円下賜	文部省	
八月十日	第四土木監督區へ出張ヲ命ス	内務省	
八月十六日	官等俸給令ヲ廢シ俸給制ニ改ム	内務省	
	廢官		

三月廿七日	東京工業學校商議委員ヲ免ス	文部省
三月廿九日	第七回帝國議會召集ノ際勳精ニ付	
	銀盃一組ヲ賜フ	賞勳局
六月十二日	第五第六土木監督區へ出張被仰付	内務省
十月廿三日	東南泰國「コンマンドール、ド、ロルド ル、ロワヤル、ヂユ、カンボヂユ」勳章ヲ 受領シ及佩用スルヲ允許ス	賞勳局
十月廿八日	第三第四土木監督區へ出張ヲ命ス	内務省
十月廿四日	臨時博覽會評議員被仰付	内閣
十月十九日	内務省所管事務政府委員被仰付	全上
十月廿一日	叙從四位	
十月廿六日	第四第五土木監督區へ出張ヲ命ス	内務省
三十年一月三十日	叙勳三等授旭日中綬章	
明治三十年一月二十九日	京都府へ出張ヲ命ス	内務省
三月廿四日	足尾銅山鑛毒事件調査委員被仰付	内閣
七月廿四日	第三第四土木監督區へ出張ヲ命ス	内務省
八月十九日	第五第六第七土木監督區へ出張ヲ 命ス	全上
八月二十日	陞叙高等官一等	
十月十三日	第四第五第七土木監督區へ出張ヲ 命ス	内務省
十月廿八日	港灣調査委員被仰付	内閣
十月廿五日	足尾銅山鑛毒事件調査事務勉勵ニ 付金貳百円支給ス	全上
十月廿七日	足尾銅山鑛毒事件調査委員被免	全上
十月三十日	内務省所管事務政府委員被仰付	全上

履歷用紙

樞密院

乙

		五月八日	逋信省管船局長心得ヲ免ス	逋信省
		五月十日	高等海員審判所長心得ヲ免ス	全上
		六月三日	鐵道會議議長被仰付	内閣
			土木會委員被仰付	全上
		十月廿日	逋信省所管事務政府委員被仰付	全上
		廿三年五月二十日	廢官	
			任逋信總務長官兼逋信省官房長	
			叙高等官一等	
		六月廿七日	港灣調査會委員被仰付	内閣
		七月五日	鐵道作業局長官心得ヲ命ス	逋信省
		十月八日	鐵道作業局長官心得ヲ免ス	全上
		十月廿七日	免兼官	内閣
		十月廿一日	依願免本官	全上
	履歷用紙			樞密院
明治廿三年	十月十日	港灣調査會臨時委員被仰付	内閣	
廿四年一月十九日		第五回内國勸業博覽會評議員被仰付	全上	
	三月十日	丁抹國皇帝陛下ヨリ贈與シタルコシマンドール、ド、ラ、プルミエール、クラス、ド、ロルドルヂュ、ダネブログレ勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許ス	賞勳局	
	十月廿五日	高等教育會議々員被仰付	内閣	
	十月廿九日	第五回内國勸業博覽會審査第八部長被仰付	全上	
廿五年十月廿八日		逋信總務長官在官中明治三十三年清國事變ニ於ケル功ニ依リ金七百四十円ヲ賜フ	賞勳局	

乙

廿六年三月七日	帝國大學令第十三條ニ依リ勅旨ヲ以テ東京帝國大學名譽教授ノ名稱ヲ授ク	内閣
三月三十日	任鐵道作業局長官	
叙高等官一等		
四月一日	廢港灣調查會規則	
四月六日	依願第五回内國勸業博覽會審査第八部長被免	内閣
五月十一日	逋信省所管事務政府委員被仰付	全上
十月七日	全上	全上
十月十日	鐵道會議々員被仰付	全上
十月廿八日	文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職被仰付	全上
履歷用紙		樞密院
明治廿七年十二月十日	京釜鐵道株式會社總裁被仰付	内閣
廿八年十月三十日	鐵道會議々員被免	全上
	韓國勳一等大極章受領シ及ヒ佩用允許	賞魚局
十月三十日	休職満期	
廿九年四月一日	叙勳一等授瑞寶章 <small>三十七八年事件ノ功</small>	賞魚局
	三十七八年從軍記章授與	
六月十日	博覽會開設臨時調查會委員被仰付	内閣
六月三十日	任統監府鐵道管理局長官	
叙高等官一等		
一級俸下賜		統監府
九月十四日	帝國學士院規程第二條ニ依リ勅旨ヲ以テ帝國學士院會員被仰付	内閣

四十年	一月廿二日	政府委員被仰付	全	上
	六月十七日	依願免本官	全	上
	八月十九日	韓國皇太子殿下嘉禮記念章受領及 ニ佩用允許	賞	勲章局
四十年	六月六日	日本大博覽會評議員被仰付	内	閣
四十年	四月十九日	日英博覽會評議員被仰付	全	上
四十年	五月廿七日	議院建築準備委員會委員被仰付	全	上
	十月十八日	臨時治水調査會委員被仰付	全	上
四十年	四月六日	廣軌鐵道改築準備委員會委員被仰付	全	上
	五月三十日	日本大博覽會工事計畫審査委員ヲ 囑託ス	農	商務省
	九月九日	港灣調査會委員被仰付	内	閣
履歷用紙			樞	密院
明治四十五年	正月八日	日本大博覽會工事計畫審査委員ノ 囑託ヲ解ク	農	商務省
大正元年	八月一日	韓國併合記念章授與	賞	勲章局
三年	六月十八日	特旨ヲ以テ位一級被進	官	内省
		叙從三位		
	六月廿三日	臨時博覽會評議員被仰付	内	閣
四年	七月十日	大禮記念章授與	賞	勲章局
五年	四月一日	賜金千五百円 大正三四年事件ノ功	同	上
	五月廿四日	佛蘭西共和國「コンマンドール、ド、ロル ドル、ナシヨナル、ド、ラ、レジヨン、ド、イ ル」勲章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允 許セラル	同	上
七年	四月三十日	臨時教育會議委員被仰付	内	閣

乙

五月廿三日	金杯一組ヲ賜フ	賞動局
六月廿二日	帝國學士院第二部長ニ認可	
七月十八日	臨時議院建築局顧問被仰付	内閣
八年二月十一日	金杯一箇ヲ賜フ 多年議員ノ功	賞動局
五月廿二日	臨時教育會議官制廢止	
五月廿四日	金杯一組ヲ賜フ 臨時教育會議ニ關シ盡力功	賞動局
六月廿五日	度量衡及工業品規格統一調査會委員被仰付	内閣
八月十五日	道路會議議員被仰付 十三年四月十日迄	同上
十月廿七日	依勲功特授男爵	
九年十月一日	銀杯一組ヲ賜フ 大正四年乃至九年事件ノ功(議員)	賞動局
十月廿五日	學術研究會會員被仰付	内閣
十年一月廿一日	臨時治水調査會委員被仰付 十三年四月十日迄	同上
履歷用紙		樞密院
大正十年九月十日	工業品規格統一調査會委員被仰付	内閣
十一年七月廿七日	鐵道會議々員被仰付	同上
十一年一月十日	七十歳ノ高齢ニ付御紋付銀杯並ニ酒肴料下賜	官内者
十月十八日	帝都復興院評議會評議員被仰付	内閣
十三年一月十四日	任樞密顧問官	
一月十六日	願ニ依リ貴族院議員ヲ免ス	
二月廿五日	帝都復興院官制廢止	
十二月八日	除服出仕被仰付	内閣
十四年三月十二日	依勲功學術研究會會員被免	同上
三月廿六日	營繕管財局顧問被仰付	同上
六月三日	震災豫防調査會官制廢止	
十月十四日	震災豫防評議會評議員被仰付	内閣

十五年十月廿二日	佛蘭西政府より贈與シタル「グラニ・オフ・シエー、ド・ロドル、ナレヨナル、ド、ラ、レシモン、ドノール」勲章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル	賞勲局
	白耳義國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「グラン・クロア、レオポール」第二世勲章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル	内閣
昭和二年五月十日	改正三位	内閣
昭和二年五月十日	臨時電氣事業調査會委員被仰付	内閣
昭和二年五月十日	授旭日大後章 九十三万四千三百四十三号	内閣
昭和二年七月三日	鐵道會議官制第五條第一項第四号ニ依リ鐵道會議議員被仰付	内閣
昭和六年二月十日	宗秩寮審議官被仰付	宮内省
昭和七年十月七日	東京科學博物館評議員ヲ薦託ス	文部省
昭和七年十月十九日	依勅宗秩寮審議官被免	宮内省
昭和八年一月十六日	八十歳ノ高齡ニ付御杖銀盃並ニ酒肴料ヲ下賜セラレタリ	
昭和九年七月二日	鐵道會議議員任期(三年)滿了退任	
昭和九年八月廿八日	授旭日桐花大綬章 第四百八十五号	
同日	薨去	
	滿洲國建國功勞章受領	奉天
	昭和三十九年奉天功勞章受領	奉天

乙